

科目名	日本文学概論 I					単位	2.0
担当教員	沼波 政保						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1	授業番号	5103

●授業のテーマ

日本文学研究の視点

●到達目標

日本文学史上著名な作品を題材に、それらの作品を知るとともに、日本文学を研究していく上でどのような視点があるかを知る。

さらに、文学研究に必須の基礎知識についての知識も身につける。

●学習内容(授業概要)

言うまでもなく、文学は人間の精神的営為の表出である。したがって、文学を享受するということは、そこに表われている人間心理を享受することである。当然、そこには時代背景が多分に影響している。

したがって、日本文学を研究することは、とりもなおさず、日本人の精神史を学ぶことになる。

しかし、ただ漫然と作品を眺めていても正しい理解は不可能であり、しっかりとした視点を持って作品に向かい合うことが必要である。そのためには日本文学史上に著名な作品を知るとともに、どのような研究の視点があるかを知っておくことが必須である。

よって、日本文学史上に著名な作品を通して、日本文学研究の視点を探っていきたい。

また、随時、文学研究に必須の基礎知識についても講義をしていく。

●学習内容(授業計画)

- 1 講 序説
- 2 講 文学とは何か 文学の必要条件・文学性・文学と歴史の違い
- 3 講 文学の受容の形態 和歌・物語・説話・謡曲
- 4 講 文学における時代と個性 丈夫ぶり・手弱女ぶり・自己凝視
- 5 講 文学における虚構 客観的事実と真実 『奥の細道』他
- 6 講 三つの自己 日記・随筆
- 7 講 作者の意図と作品の意図 記紀・『平家物語』他
- 8 講 遠心性の文学と求心性の文学 『源氏物語』・『平家物語』他
- 9 講 個の文学と多の文学 日記・自筆・物語
- 10 講 文学と思想 『枕草子』・『徒然草』他
- 11 講 文学における「読み」 『平家物語』・『徒然草』他
- 12 講 文学研究における主観と客観 科学との違い
- 13 講 ジャンルの曖昧性 『方丈記』他
- 14 講 文学の人間観 『宇治拾遺物語』・『平家物語』・『徒然草』他

【基礎知識】

十干十二支, 月の異名, 時刻の表記, 方角の表記, 八代集, 他

●準備学習・事後学習の内容

前回の授業内容を理解した上で授業に臨む。
毎回の授業後には、授業の内容をノートに整理し、理解しておく。

●成績評価方法・基準

授業中に随時行なう臨時テスト（2～3回）の成績（70％）に受講態度（30％）を加味して評価する。

●テキスト（必携）

適宜、プリントを配布する。

●参考文献／その他

適宜、紹介するが、その他に、日本文学作品はできるだけ読むことをこころがけてほしい。

●履修上の注意

主体的態度で受講することを望む。遅刻・欠席を慎み、必ずノートを取ること。ノートを取らないとテストに対応できない。